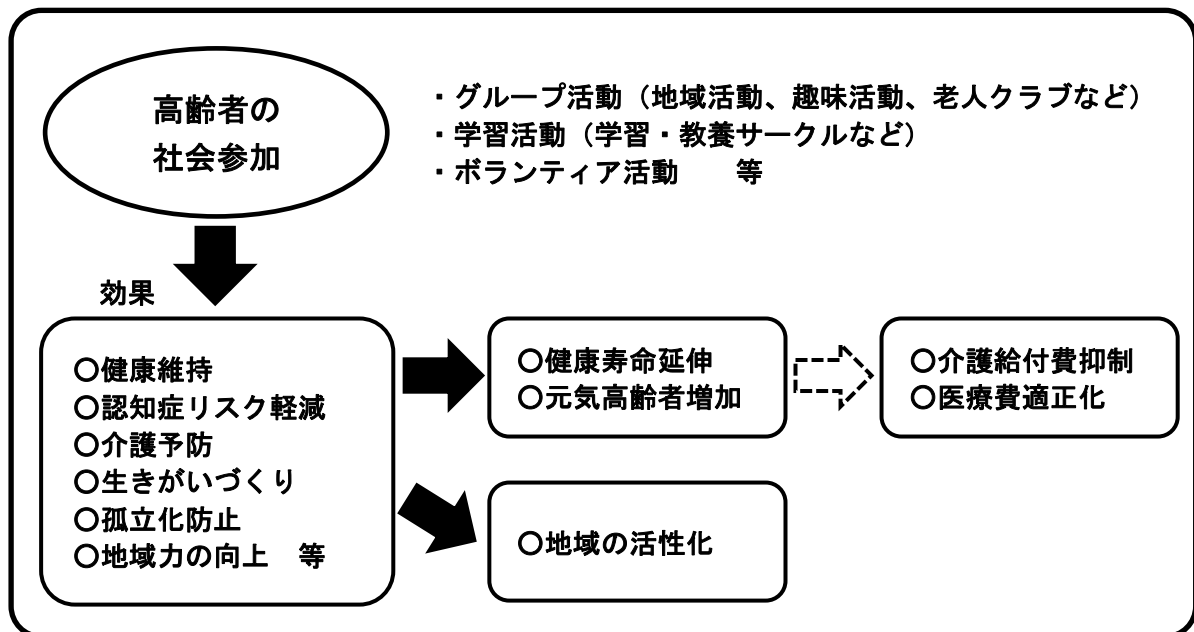


## 高齢者の社会参加について

## 1 高齢者の社会参加の意義と必要性【参考資料 1 P.1~P.14 参照】

- 社会参加は、健康維持・認知症等のリスク減少に寄与することが、各種文献等から認められている。
- また、高齢者の生きがいつくりや孤立化の防止にも資するものであり、さらに、高齢者が積極的に社会参加することで、地域力の向上にも繋がることが考えられる。



## 2 社会参加に対する高齢者の意識等【参考資料 1 P.16~P.25 参照】

## (1) 高齢者のグループ活動

- 趣味、健康・スポーツ活動への参加が多く、地域支援活動は少ない。

## (2) 高齢者の学習活動

- 趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道等）や、健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳等）が多く、知識・技能の習得は少ない。
- 生涯学習をしていない人は5割以上。

## (3) 高齢者の世代間交流

- 高齢者が若い世代との交流に参加したいと考えているのは6割であり、10年前に比べ7ポイント増加。
- 世代間交流促進のために必要なことは、「交流機会の設定」が最も多く約3割。

## (4) 高齢者の社会的な貢献活動

- 活動していない人が約7割。

### 3 熊本市における高齢者の社会参加の現状【参考資料1 P.26～P.44 参照】

- 地域活動への参加は、趣味関係、町内会・自治会、スポーツ関係が多く、ボランティアや学習・教養関係は少ない。
- 地域住民有志によるグループ活動への参加意向を持っている人は約6割であるが、実際の参加は少ない。
- 閉じこもり傾向が見られるのは、80歳以上の1人暮らしの女性。
- 外出を控える理由は、高年齢層は主に身体上の理由であり、低年齢層の男性は外での楽しみがない。

#### ◆◆◆ 前回（第1回検討会）での主な意見から ◆◆◆

- 高齢者に対し、サークル活動への参加を呼び掛けてもあまり参加してくれない。参加している人はいきいきとしている。
- 参加が少ない理由は、体力的な問題のほか、活動に満足感を得ていないのでは。
- 呼びかけや広報など、何かきっかけや意識付けがなければ「自分から参加する。」という気持ちになるのは難しい。どのようにして参加に結び付けていくのか議論が必要。
- 高齢者をいかに社会参加に結び付けていくのかということは非常に重要。
- 若者と接点を作ることによって高齢者の人たちが蘇るケースを見てきている。年齢層の違う人達が一緒に活動できるような場をどうやって高齢者に提供するか考える必要。
- ちょっとしたきっかけで外に出ていただく工夫が必要。
- 高齢者と障がい者、地域の皆さんで連携して展開していくことが必要。
- 地域で色々な「場」づくりがされており、歩いて行ける所で「場」がたくさん作られている。その中でバス等の交通網がどれくらい関係して必要になってくるのかということを考える必要。

## 第2回検討会における議論のポイント

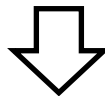
### ●高齢者の社会参加促進のために必要なこと

- ・参加のきっかけづくり
- ・活動の「場」づくり
- ・参加への意欲喚起
- ・活動内容の情報発信 等

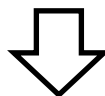


### それを実現するための支援

- ・地域ができること
- ・行政の役割
- ・さくらカードの役割 等



7月 高齢者と障がい者の社会参加について考えるワークショップ  
・社会参加のあり方、課題、参加を促すアイデア等について



8月 第3回検討会  
(案) 社会参加促進のための具体案、さくらカード制度のあり方